

【様式】

令和6年度 学校マネジメントシート

学校名(三重県立四日市商業高等学校)

1 目指す姿

(1)目指す学校の姿	校訓である「至誠」の精神のもと、商業教育・普通教育を通じて知・徳・体の健全な成長を促し、地域と連携しながら専門性の高い社会人を輩出できる学校	
(2)	育みたい資質・能力(育みたい生徒の姿)	<ul style="list-style-type: none"> ○礼儀やマナーをしっかりと身につけた上で、生きて働く知識・技能を備えるとともに、未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力を持ち社会に貢献できる人材 ○様々な変化に積極的に向き合い、他者と協働して課題解決ができる能力を持ち、社会人として活躍できる人材
	【グラデュエーション・ポリシー】	
	ありたい教職員の姿	<ul style="list-style-type: none"> ○目指す学校像の実現に向け、教職員が自らの専門性を高めるとともに互いに協力し合い組織一丸となって教育活動に取り組む職員集団 ○優れた人権感覚と社会人としての良識に富み、生徒や保護者との間に信頼関係が築ける教職員 ○コンプライアンスを遵守し、信頼ある教育活動を展開する教職員

2 現状認識

(1)学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待	<p>(生徒)約47%の生徒が地元企業への就職を希望し約52%が上級学校への進学を希望している。就職では事務職に就くことを望む生徒が多い。安定した学習環境を望み、各種検定や資格取得、充実した部活動に期待する生徒が多い。</p> <p>(保護者)学力の向上、挨拶やマナー等の社会性の向上を期待するとともに、希望進路の実現には強い関心がある。また、安心・安全の観点から学校からの情報発信の充実を望む声が多い。</p> <p>(企業)商業関係のスキルはもとより、挨拶や人間関係構築などコミュニケーション能力を備えた人材の提供を望む声が多い。</p> <p>(地域)地域社会の行事などへの生徒の参加、参画による連携や交流を通じて地域活性化への寄与が期待される。</p>	
(2)連携する相手と連携するうえでの要望・期待	連携する相手からの要望・期待	連携する相手への要望・期待
	<p>(家庭)適切な連絡や学校からの情報提供、相談体制の充実</p> <p>(中学校)卒業生による説明会への参加等を通じて実際の高校生活にかかわる情報の提供</p> <p>(企業)就職後のアフターフォローと生徒情報の提供</p> <p>(大学等)高校からの継続した連携、大学の紹介等の機会の設定</p> <p>(地域社会)開かれた学校づくり、地域との連携や協働活動、情報共有機会の増加</p>	<p>(家庭)学校行事やPTA活動への積極的参加。学校教育への理解と支援及び確実な連絡体制</p> <p>(中学校)適切な進路指導、キャリア教育の実践。生徒についての緊密な情報交換</p> <p>(企業)積極的な求人、インターンシップ等への理解・協力</p> <p>(大学等)卒業生の受け入れ、講師派遣や高校生への直接指導など高大連携、キャリア教育・授業改善への取組</p> <p>(地域社会)通学等の安全確保や学校への様々な協力、支援</p>

(3)前年度の学校関係者評価など		<p>○学校説明会や学校案内リーフレットなどの情報発信において泗商の強みをアピールすることができた。進路実現に向け、より具体的な紹介があればさらに良くなる。</p> <p>○校内に設置したスクリーンで在校生の校内外活動を紹介することは、生徒を称える意味があり良い取り組みである。</p> <p>○PTA 役員との協働した学校行事は今後も続けてほしい。</p> <p>○地域とともに歩む学校として、防災訓練や地域行事への積極的な参加の継続が必要である。</p> <p>○事故を減らすためには自転車の運転マナー指導は大切である。ヘルメット着用を促していくとともに、安全対策を講じていく必要がある。</p>
(4)現状と課題	教育活動	<p>○すでに実施している観点別評価に向けた学習内容の改善・充実が必要。基礎学力の底上げはもとより、企業や地域と連携した取り組みや商業の授業内容や活動内容の質の向上が求められる。</p> <p>○「人間教育(人づくり)」については、基本的な生活習慣を確立した上で、泗商の良き伝統を大切にしながら、質の高いビジネスマナーの習得を本校の武器にしていこう。</p> <p>○部活動については、学業との両立および教員の過度な負担の軽減のバランスを考えながら強化に取り組む。</p>
	学校運営等	<p>○新学習指導要領を年次進行で実施する中で、各教科で学習内容の検討や授業力向上の組織的な取り組みが必要。カリキュラムマネジメントを行う上で、カリキュラム委員会での積極的な議論が必要。</p> <p>○地域との連携や課題研究などの効果的な取り組みをさらに進めるとともに、ウェブサイトやメディアの活用等PR活動にも積極的に取り組み、本校の情報発信を一層進める必要がある。</p> <p>○職員の仕事の偏りや時間外労働の縮減に取り組むとともに、風通しの良い職場環境の構築を行い、職員の情報共有・コミュニケーション機会を増やす。</p>

3 中長期的な重点目標

教育活動 【カリキュラム・ポリシー】	<p>○校訓である「至誠」の示す人間教育を大切にしながら、変化の激しい社会で求められる資質・能力を把握したうえで「本校の育みたい生徒の姿」にある人材を育成していく。</p> <p>○学校の諸活動を通して、生徒の自主性・主体性を向上させる取組を進めていくとともに生徒一人ひとりの自己肯定感を涵養する教育を推進する。</p> <p>○教員が主体的にカリキュラムマネジメントに基づき、授業改善、教育改善を行う。</p> <p>○「思考力」「判断力」「表現力」「課題発見・解決力」「専門性」「協働性」といった「今後の社会で生き抜く力」「社会に貢献する力」を授業、特別活動、部活動など学校教育全体を通して育てていく。</p> <p>○校内に留まることなく「地域の大人」「他校の生徒」など「他者」との対話・交流を通じて積極的、主体的な人間性や課題発見・解決力を育む探究活動に取り組む。</p> <p>○進路実現に向けて、充実した学校生活を過ごせるよう、学業と部活動等とのバランスを考えて取り組む。</p> <p>○GIGA スクール構想の下、タブレット端末を有効活用して多様な学びを進め、環境の変化や課題に的確に対応できる生徒を育成する。</p>
学校運営等	<p>○高度な資格試験や大学入試、新学習指導要領への適切な対応を進める。特に観点別評価については、評価を実施しながらより良い評価につながるよう常に見直しを図る。</p> <p>○進学希望者が増加する中で、多様な進学方法に対応し、個に応じた進学体制づくりを行う。</p> <p>○授業改善・進路指導につなげることで「就職も進学も強い泗商」「多様な進路」「地域貢献できる学校」を中学生とその保護者や地域に泗商の魅力を発信し、今以上</p>

	<p>に「生徒が学びたくなる学校」「保護者が子供に行かせたい学校」「地域が応援したくなる学校」となるよう取り組む。</p> <p>○酒商独自の風紀、週番制度の活用などを通して、生徒の自主性・主体性を向上させることにより生徒の学校運営への参画を図る。</p>
--	--

4 求める生徒像

<p>入学時に期待される生徒の姿</p> <p>【アドミッション・ポリシー】</p>	<p>○商業の学習に興味・関心をもち、資格取得などに意欲的に取り組める生徒</p> <p>○スポーツ・文化活動または生徒会活動等で優れた資質を有し、入学後もその活動を継続的・意欲的に取り組む意志のある生徒</p>
--	--

5 本年度の行動計画と評価

(1)教育活動

教育活動に関する項目は、児童生徒を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「教育課程・学習指導」「キャリア教育(進路指導)」「生徒指導」「保健管理」など

また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」：定期的に進捗を管理する取組 「◎」：最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
学習指導の充実	<p>(1)教科会の活用、授業参観週間・公開授業の実施等により、授業力の向上を目指す。</p> <p>【活動指標】教科会の活用、授業参観・公開授業の実施・生徒アンケート実施</p> <p>【成果指標】公開授業延5日以上、生徒アンケートでの授業理解度80%以上</p>	<p>(1)年6回カリキュラム委員会を開き、評価や教育課程など様々なことについて協議した。中学生や保護者を対象に授業公開を行った。授業の様子がよく分かった、分かったという回答が99%であった。他校の教員対象に公開授業延5日実施。生活アンケートの結果、授業の理解度95%となった。</p>	◎
キャリア教育と探究活動の充実	<p>(1)商業科独自に検討委員会を設置し、ビジネス基礎や課題研究の学習内容を検討する。</p> <p>【活動指標】検討委員会を年3回開催し、特に外部機関と連携した2年生の11月以降の探究活動について教科会へ具体案を提示する。</p> <p>【成果指標】2年生の課題研究で、1回以上外部機関と連携した探究活動を実施する。みえ創業チャレンジスクール事業に参加し、ワークショップを取り入れた探究活動を実施する。1年生にビジネス基礎についても学期に1回以上探究活動を実施する。</p>	<p>(1)1年生「ビジネス基礎」や「情報処理」計5時間ほど探究プログラムを実施した。2年生課題研究で、企業・大学・支援団体と協力し近鉄百貨店に誘客に係る提案を6時間かけて実施した。また更に3年生課題研究で全国1位をとるなど、それぞれの探究活動の学びを深めることが出来た。</p>	

<p>進路指導</p>	<p>(1)生徒一人ひとりの進路実現に向けて具体的な指導・助言を行う。 【活動指標】各学年の進路指導計画に基づき、進路実現100%を目指す。 【成果指標】年間で3年生6回・2年生3回・1年生2回の進路講話を実施 (2)多様な進学方法に対応し、個に応じた進学体制づくりを進めるため、学習到達指標を活用した指導を行う。 【活動指標】講演会や研修を通じ、学習到達指標の有効活用についての理解を深める。 【成果指標】生徒向けの講演会及び教員向け研修会を1回以上実施。 (3)各学年に必要な進路情報の提供を行う。 【活動指標】進路通信を発行し、適宜情報提供を行い、生徒の進路意識の醸成を図る。Classroomの活用。 【成果指標】進路通信を年8回以上発行。</p>	<p>(1)進路講話を計画通りに実施した。 就職については、進路指導部の保護者説明会の実施、および担任による個人面談・三者面談・面接指導等の複数回の実施により進路実現につなげることができた。 進学については、進路指導部や担任による個に応じた手厚い支援・指導によりほとんどの生徒が志望する学校のオープンキャンパスへ参加した。 (2)外部講師とともに進路講話や進路ガイダンスを9回実施した。 (3)進路通信8回以上発行した。また、生徒の一人一台端末への情報発信に努めた。</p>	
<p>生徒指導 生徒会活動</p>	<p>(1)社会で活躍し、地域に貢献できる人づくりを行う。 そのため、礼儀やマナーをしっかりとわきまえ、規律を守る、高い規範意識を持つことに加え、他者を尊重し、関りを大切にする生徒の育成を目指す。 【活動指標】 ・風紀週番制度を社会に出るためのトレーニングととらえ、活動に丁寧に取り組み、生徒一人一人の責任感、協調性を養う。 ・全教職員による、あいさつの励行、身だしなみの指導 【成果指標】 ・当番忘れによるやり直し率 10%以下 ・学校生活アンケートで基本的な生活習慣が身についた90%以上、挨拶など礼儀が身についた95%以上 (2)交通安全指導の徹底を図る。 【活動指標】 ・校外において登下校指導(年間15日各4ヶ所)を通じ登下校時のマナー向上を図り、交通安全に対する意識を高める。 【成果指標】 ・登下校指導による指導生徒数5人以下および苦情件数前年度比半減 ・自転車事故件数0件 (3)部活動・生徒会活動の充実と部活動を通じた人づくりを行う。 【活動指標】部活動・生徒会活動を通じて生徒の主体性の向上を図る。 【成果指標】東海大会出場15クラブ以上、全国大会出場10クラブ以上、学校生活アンケートで「部活動への取り</p>	<p>当番忘れや欠席によるやり直し率は13%(風紀のべ人数320人・週番のべ人数1176人、計1496人。風紀週番やり直し人数のべ204人)となり前年比2%増。 学校生活アンケート基本的な生活習慣が身についた88.6%。 挨拶や礼儀が身についた98.7%。 苦情件数は9件(前年度2件)。 自転車事故10件(昨年度14件)。 登下校指導(年間19日)や挨拶運動を実施し、生活面交通安全の意識の向上に取り組んだ。 全国大会出場クラブ10クラブ。 東海大会出場クラブ13クラブ。 部活動への取り組みが熱心になった割合75%。</p>	

	組みが熱心になった割合が85%以上。生徒が主体的に活動する生徒会活動。		
改善課題			
<p>○探究的な学習については商業科「課題研究」を中心に地域との連携や外部教育力の活用によって充実した内容であり一定の成果がみられる。これからもさらに充実させ発展させていければ良い。</p> <p>○自転車の事故件数は昨年度から減少したものの交通安全や交通マナーの指導に工夫が必要である。また、ヘルメット着用率は上がっているがさらなる着用の推奨等が必要である。</p>			

(2)学校運営等

学校運営等に関する項目は、教職員や施設等を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「組織運営」「研修(資質向上の取組)」「情報提供」「保護者・地域住民等との連携」など

また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標とします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標とします。

【備考欄について】「※」：定期的に進捗を管理する取組 「◎」：最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
資質向上の取組	(1)計画的な教職員研修の実施 【活動指標】職員対象の人権研修を年間2回以上、SCによる教育相談研修を1回以上、保健部による応急救護処置等の研修会を1回以上実施	エピペン講習会、救急救命講習会(AED講習会含む)、スクールカウンセラーによるカウンセリング研修会を実施。	
魅力アップと情報提供による信頼の構築	(1)課題研究で、商業高校の魅力が伝わる体験講座やPR動画などを作成し高校生活入門講座の充実を図る。生徒満足度をもとに外部へ提供する情報内容の見直しを進め、情報発信の充実を図る。コミュニケーションツールとしてのGoogle Classroomの活用を一層推進する。 【活動指標】ポスターは年1回、チラシは年2回発行する。授業に関する内容をホームページに月1回アップするなど学習活動を中心とした学校案内の充実を図る。	昨年度からの申し送り事項であったホームページをリニューアルし9月に公開。 高校生活入門講座のCM動画を作成。ホームページにアップし、入門講座のPRを行った。 学校案内の表紙には、在校生がモデルとなり、充実した学校生活が伝わるデザインとした。 10月に四日市文化会館で実施した学校説明会では、約250名の中学生、保護者が参加。	◎
人権教育・特別支援教育の充実	(1)人権教育を充実し、命を大切にする教育を行う。 【活動指標】年間8回以上の人権教育推進委員会の開催、各学年が各学期に1回以上人権HRや講演会等を実施 (2)生徒一人ひとりの状況にあわせ職員間の連携を密にし、情報共有を図り、生徒にとって安心安全な環境を整える。特別支援教育委員会や教科担当者会議などを通じて、生徒の状況把握・情報交換・情報共有に努め、合理的な配慮を行う。	(1)県教育委員会人権教育課の人権感覚あふれる学校づくり事業における企画会議が年間5回、推進委員会が4回、計9回実施することができた。また、人権LHRにおいては1年生は子どもの権利条約における意見表明権につい	

	【活動指標】保健通信を月1回(年12回)発行、特別支援教育委員会を年間5回以上、教科担当者会議も随時実施し、生徒の状況に応じ個別の支援計画を立てる。	て、2学年は長崎の修学旅行などでの平和学習、3学年はヘイトスピーチ防止等について実施することができ、少しずつではあるが人権教育の充実に向けて推進することができた。 (2)保健通信5回発行および保健室前のディスプレイでの呼びかけ動画年間約35ファイル作成、特別支援教育委員会兼教育相談情報共有会議5回実施、生徒の状況に応じた教科担当者会議、情報共有を実施。また、スクールカウンセラーによる生徒向け講演会、教員向け研修会の実施	
働きやすい職場環境づくり	(1)総労働時間の縮減に向け年次有給休暇等を取得しやすい環境をつくる。 【活動指標】 設定した日の定時に退校できた教職員の割合 80%以上 予定通り休養日を実施できた部活動の割合 90%以上 放課後に開催して60分以内に終了した会議の割合 95%以上 【成果指標】時間外在校等時間が年360時間を超える教職員数 0人 時間外在校等時間が月45時間を超える教職員の延べ人数 0人 1人当たりの月平均時間外在校等時間 30時間以下 1人当たりの年間休暇取得日数 10日以上 (2)不祥事根絶のためコンプライアンス研修を学期に1回以上実施し、学校信頼向上委員会を定期的開催するなど、職員のコミュニケーションの機会を増やし、働きやすい環境をつくる。	(1) (昨年度比較) 95% (±0%) 100% (±0%) 98% (±0%) 10人 (-2人) 31人 (-8人) 15.5時間(-1.1時間) 19.6日 (+0.9日) (2)各学期に1回実施	
改善課題			
<p>○人権教育については県事業に参加し、「子どもの人権」について取り上げ一定の成果をおさめた。一時的な学習としないために、今後どのように学習した内容をつなげていくかが課題である。</p> <p>○ホームページを刷新し、わかりやすい構成や内容により発信力を高めた。今後はSNSの活用に着目しさらなる発信力の強化につなげることが考えられる。</p> <p>○効率的な会議運営や内容の精選、管理職による声掛けなどにより時間外労働時間の削減につながっている。</p>			

6 学校関係者評価

明らかになった改善課題と次への取組方向	<p>○人権学習の発展は重要であり、一時的な学習にとどまらず、今年度の良い取組を次年度につなげてほしい。</p> <p>○自転車事故件数や交通マナーによる苦情件数については交通安全指導や交通マナ</p>
---------------------	---

	<p>一指導について工夫をする必要ある。あわせてヘルメットの着用励行にも力を入れていってほしい。</p> <p>○探究的な学習については年度を重ねるごとに充実したものになっている。これからもさらに発展させていってほしい。</p> <p>○授業公開や高校生活入門講座、学校説明会など中学生へのはたらきかけは3学年対象だけでなく1年生、2年生にも参加できる工夫をすともっと広く学校の魅力を伝えることができるのではないのでしょうか。</p> <p>○学校の魅力発信については、入学した生徒に「四日市商業高校」に進学を決めた理由を聞くなど、アンケートを実施しニーズの絞り込みをすることが有効ではないか。また、入学生の保護者にも実施するなど有益な情報を得る取組を考えると良い。</p>
--	---

7 次年度に向けた改善策

教育活動についての改善策	<p>○今後も「指導と評価の一体化」を図り、評価手法の研究や授業改善に努めていく。</p> <p>○交通安全や交通マナーについて粘り強く指導する。</p> <p>○引き続き探究的な学びの充実を図っていく。</p>
学校運営についての改善策	<p>○一部の教員に業務負担が偏らないよう組織的な業務分担を実践していく。</p> <p>○学校の魅力発信についてはホームページだけでなく SNS を活用した取組を検討する。</p> <p>○学校紹介などは中学3年生対象だけでなく1学年、2学年にも参加してもらえるような取組を検討する。</p> <p>○入学生やその保護者対象に進学の決め手となった情報をアンケートなどで収集し、広報活動に役立てる。</p>